



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第三一〇号〜

りっとう  
立冬

十一月八日

## 即位をことほぐ

令和元年十月二十二日、天皇陛下が国の内外に即位を宣言する即位礼正殿の儀が厳かに行われました。「平和を常に願ひ、国民に寄り添う」。高御座たかみくらで述べられた天皇陛下のお言葉が心に響きました。

その日、私は東京日本橋にある三重県のアンテナショップ、三重テラスに向かいました。伊勢は急速に天候が回復し、青空も見えていましたが、東京は冷たい雨が降っていました。東京駅周辺は交通規制が敷かれ、車の往来は少ないものでした。しかし、即位礼の儀式のパブリックビューイングが行われる三重テラス二階は集まった人々とそれを囲むようにずらりと並ぶ報道陣で、熱気にあふれていました。

会場で皆さんと一緒に記念すべき儀式を拝見し、なんとも晴れやかな気持ちになりました。

そのあと、皇居の二重橋前に行くと、大勢の人々が集まっていました。外国人の姿も多く、台湾と記したタスキをかけたスーツ姿の男性たちの集団も見かけました。天皇陛下のお車が二重橋を渡ってこられると一斉に万歳の声が上がりました。

一方、伊勢神宮内宮前にも御大礼奉祝委員会による記帳所が設けられ、連日、記帳に訪れる人々がおられました。

ことばでもって祝福することを「言祝ぐことほ」といいます。

即位礼は、まさに喜びとともにわかちあう、そんな「言祝ぐ」ときを過ぎました。そこには天皇陛下のお言葉通り、令和という時代が平和であることを願う気持ちが進められているのです。

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ 第17回神恩感謝日本太鼓祭

全国各地の郷土色豊かな太鼓が伊勢に集い、日々太鼓が叩ける喜びと感謝の思いを太鼓の音に乗せ、神様に奉納します。

と き／11月 9日(土) 10:00～17:30

10日(日) 9:30～17:30

ところ／伊勢内宮前おかげ横丁一帯(雨天一部内容変更あり)

入 場／無料

出演団体：岩崎鬼剣舞(岩手県)、喜連川公方太鼓(栃木県)、  
三宅島芸能同志会(東京都)、八丈太鼓の会(東京都)、  
大江戸助六太鼓(東京都)、太鼓芸能集団 鼓童(新潟県)、  
御陣乗太鼓保存会(石川県)、弓ヶ浜祭太鼓の会(静岡県)、  
熊野鬼城太鼓(三重県)、神恩太鼓(三重県)、舞太鼓あすか組(奈良県)、  
備中温羅太鼓(岡山県)、豊の国ゆふいん源流太鼓(大分県)

## ● 奉納太鼓演奏

と き／11月 9日(土) 10:00～17:30

10日(日) 9:30～17:30 (会場により異なる)

ところ／おかげ横丁「太鼓櫓」、五十鈴川河川敷特設舞台、  
五十鈴川野遊びどころ中庭会場 他

## ● ミニ太鼓作り(協力：(株)浅野太鼓楽器店)

ケヤキの胴に革を張る、本格派の太鼓を作っていただけます。

と き／11月9日(土)、10日(日) 12:30～14:00(約90分)

※当日10:00より受付

ところ／横丁棋院

参加費／有料(両日とも1日先着20名 ※一家族につき2つまで。小学生以下のお子様の場合、一人につき保護者一名の同伴が必要。)

五十鈴塾

## ○ はじめての花結び ～様々な花結び4種

「花結び」は一本の紐を手で結び、花や蝶、紋などの形をつくる飾り結びです。「結ぶ」という行為には、長い歴史と伝統に培われた美しさが存在しています。古代人は、その結び目に神の御心が宿ると信じていました。仏教の伝来と共に花結びが伝えられると、花結びの文化は一気に花開きました。現在でも、信仰に関するもの、日本の伝統的なものなどには残っていますが、私たちの暮らしからはほとんど消えてしまいました。そんな優美な結びを現代風にアレンジして楽しんでみませんか。今回はペンダントトップに通す紐を花結びします。4種類の花結び(あわじ結び・巻き結び・左右結び・つゆ結び)を自由に組み合わせ、オリジナルのペンダントを作ります。紐とトップは取り外し自由なので別々に使うこともできます。この機会に世界に一つ、オリジナルの花結びペンダントをぜひ作ってみませんか？

と き／11月13日(水) 13:30～15:30

講 師／川本 美香子(日本結び文化学会会員)

参加料／一般3,000円 会員2,500円(材料費含む)

ところ／五十鈴塾右王舎

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

こうよう  
紅葉

伊勢路の景色は、未だ秋の名残りを留めています。紅葉の盛りを表す二色のきんとん。行く晩秋を惜しんで染めた彩りです。

くり  
栗かのこ

夕焼けが終わり、やがて伊勢路の空に浮かぶのは、明るく冴えた月の姿。鹿の子模様の餡玉に栗をのせて、月が映える澄んだ秋の夜空に似せました。

もち  
うずら餅

草深い野の情景を連想させる鶉は、万葉の時代から詩に詠まれてきました。栗と粒餡を求肥で包み、可愛い鶉の姿をお菓子のかたちに写し取りました。